

# クリーンハイクで大宣伝を！！

## ごみ回収以外の楽しい企画を

近年、ハイキング道のゴミは少なくなった、との報告は当たり前になりましたが、それでも放置するとゴミがゴミを呼ぶかのようにとめどなく汚れてくるように思います。ただ、それにしてもやはりゴミは少ないのでゴミ以外の企画を呼びかけます。

## ゴミ回収以外の活動で考えられること

### ① タンポポ調査

おそらく、山の中では関西タンポポが多いと思われませんが、登山口までの住宅地には西洋タンポポが多いと思います。

採取は1コース2株程度で構いません。ハイクがてら、「これは関西」「これは西洋」と確認しながら「なんで関西なの」「なんで西洋なの」と考えてみましょう。

ヒント：開発地にはまず西洋がやってくる。昔からの土地には関西が居座っています。それぞれの体質がそうさせているようです。

### ② 登山道の整備

泉南の山々は数年前の台風の影響が未だ癒えぬようです。むしろ枯れ木と化し、いつ倒れても不思議ではない木もありそうです。

処理を自治体に要請するなり、状況次第ではノコギリ処理もあってもいいのではないのでしょうか

### ③ ゴミ持ち帰りを大宣伝

宣伝と言っても拡声器でやるものではありません。ゴミ回収作業中であることが目立つように努めるだけでいいのです。他のハイカーとかツアーリング族にそれとなく訴える。パトカーですら「ご苦労様」と挨拶することもあります。とにかく目立ちましょう。

### ④ 集会時には山筋ゴーゴーも

山頂での集会では、山筋ゴーゴーとかザイルワークとか、他のハイカーが興味を持ちそうなことはいかがでしょうか

クリーンハイク実施日までまだ日にちがあります。みなさんの提案をOWAFで交流しましょう。

自然保護委員長 澤村秋則

## 女性委員会ページ

### \*\*近畿ブロック搬出訓練に参加して\*\*

4/7の搬出訓練「応急手当」のデモンストレーション、兵庫の方の補助役で参加しました。今回は補助でしたが次回は主役で説明出来るように日頃からの自主練が必要だと実感しました。デモンストレーションの時でもドキドキしていたのに、いざという時訓練成果が生かせるか……、自信はなし！習うより慣れろ、で日頃からの練習が大事と再確認しました。 報告：佐伯

### \*\*女性の為の登山教室報告実技講習会「大岩岳」を終えて\*\*

4/14(日)大岩岳にて登山教室2回目の実技を行った。初夏のような天気の中今回の実技は読図をメインに実施し各分岐点で地図と磁石で進路を決めて進んで行きました。少人数でも最後までやり遂げて良かったと思います。セミナーの方もやる気満々の方で何処かのクラブ（この指とまれクラブ一覧表渡済）に入会すると思います、訪問した折にはよろしくお願ひします。

### ❖女性委員会交流会中止します！！

5/25・26 滋賀県イン谷に有る比良小屋に泊まり一緒に楽しくおしゃべりしましょうと労山ニュース4月号に掲載しましたが諸事情により中止する事になりました

### 第54回戦跡ハイキング 3月29日(金)～30日(土)

福知山・綾部・舞鶴…鬼ヶ城(山城)、舞鶴引揚記念館、五老岳

今回は一泊二日で京都府北部、舞鶴・綾部・福知山の山城や引揚記念館、古墳等を訪ねました。参加者は8名、自家用車二台に分乗して京都府北部に向かい、それぞれの訪問地を楽しく歩き、みんなで有意義に交流することができました。

3月29日、最初に向かったのは舞鶴引揚記念館でした。館内は1945年の第二次大戦終結後に旧ソ連によってシベリアに抑留された人々の体験を描いた絵画や家族へ送った手紙、抑留時に書かれた貴重な日誌などの資料が展示されていました。語り部さんからも館内を説明をしていただき、終戦時大陸に残された日本人約47万人がシベリア各地の収容所で長い年月、強いられる辛い抑留生活等を知ることができました。引揚記念館の近くの引揚栈橋にも寄ってみました。「岸壁に母」の歌とともに知られる舞鶴引揚栈橋は、終戦以来大勢の引揚者と遺骨を迎え入れた終戦と平和の象徴的スポットです。

引揚栈橋のあと、五老ヶ岳、道の駅舞鶴港とれとれセンター、私市丸山古墳を経て綾部市里山交流センターへ。五老ヶ岳(300m)は近畿百景第一位の絶景、舞鶴湾・舞鶴市街が一望できました。とれとれ市場では、目の前に並べられている魚を調理してもらって昼食を。私市丸山古墳は舞鶴自動車道のトンネル上で発掘され京都府最大の円墳、古墳時代中期の古墳で墳丘は3段構成であり由良川の河原石が葺石として敷き詰められていたようです。墳丘からの眺望も抜群で盆地を眺めながら古代の綾部を考えてみるのも楽しいひと時です。

宿は綾部市里山交流研修センター、2023年5月にリニューアルオープンされた、格安でとてもシンプルな施設でした。夜は各会の交流、ピトンの会の菅野昭雄さんの原発賠償関西訴訟の報告を聴きながら福島の現状や原発事故などについて話し合いました。菅野さんの福島県浪江町への愛着は強く裁判はまだまだ続くようです。私たちも福島や原発についても、もっと学習をしながら原発訴訟の裁判を支援していきたいものです。

30日のメインは福知山の鬼ヶ城登山でした。登山口の観音寺までは交流センターからマイカーで約30分、鬼ヶ城は鬼ヶ城山とも呼ばれ、鬼ヶ城の名でも広く親しまれている山です。鬼ヶ城(544m)は福知山市と綾部市の境に位置し、福知山市街からも見上げることができる姿の美しい山です。登山口からゆっくり歩いて約1時間、山頂からは福知山盆地、由良川の流れを眼下に、はるか大江山連峰の山並みも一望することができます。この山頂直下にはわずかに石垣の遺構があり、戦国武将が城塞を設けたところだと分かりました。花は少な目でしたが所々にミツマタも、低山をみんなでゆ

ゆっくりのんびりと歩くのも楽しいものです。泉州労山の西村さんにコースタイムと出会った花を記録していただきました。

戦跡ハイキングの二日間、みんなで仲良く交流を深め、ゆっくりのんびりと歩く楽しい旅でした。

記：大西清見

参加者 園（きたろう）、菅野（ピトン）、日置（くまごろう）、井上（コンク）  
川上（ハイジ）、榎本・西村・大西（泉州） 計8名



3.29 舞鶴引揚記念館、語り部さんから案内をしていただく



3.30 鬼が城山頂で集合写真

<コースタイム> 3月30日（土）

9：48 出発（登山口）  
10：11 大きな石の所で小休憩  
10：29 分岐着 休憩  
10：34 分岐発  
10：57 頂上着  
11：11 頂上発  
11：28 分岐（通過）  
11：47 段々畑  
11：58 到着（登山口）  
12：02 駐車場着

<お花などの名称>

- ・ミツマタ
- ・サカキ
- ・馬酔木（あせび）
- ・ミズキ系→  
日向ミズキ
- ・枝垂桜

戦跡ハイクに参加して 泉州労山 西村初美

戦跡に興味があり、ハイキングなら私にピッタリと思い参加させて頂きました。

舞鶴引揚記念館では、シベリア抑留の実態や東京オリンピックで盛り上がっていたが、舞鶴では、まだ最後の引揚船を迎え戦争の後始末が行われていたことを知り衝撃でした。昼食は、とれとれ市場で新鮮なお造りや焼き魚をみんなでつつきあいながら大変おいしく頂きました。「みんなで分け合う」って「あったかいなあ」と改めて感じさせて頂きました。宿舎の近辺を散策中に川上さんが見つけれられた鹿の角、たぬきのフン、フキノトウには感激！！でした。菅野さんの福島原発賠償訴訟のお話がありました。園さんが「山の仲間だ

から。労山は山に登るだけじゃない。社会にも関わっていく」とおっしゃった言葉に皆さんの強い絆と友情を感じ密かに感動していました。そして訴訟の実態は私がニュースや紙面で見て感じているのとは全く違い、今までの自分の理解の仕方や捉え方が恥ずかしくなりました。同時に国への怒りがもっと湧いてきました。

一泊二日、色々な方々と交流ができ、居心地がよく、ゆったり濃く充実した時間となりました。本当にありがとうございました。

\*\*\*\*\* 平和と登山委員会より \*\*\*\*\*

#### I 2024年5月3日(金)

##### 2024/05/03 輝け！憲法 平和といのちと人権を

##### おおさか総がかり集会 (5/3 13:45～ 大阪市)

いまこそ憲法いかす政治へ！

大軍拡・大増税NO！ いかそう9条！ パレスチナ・ウクライナに平和を！

東アジアの平和を！ 辺野古に新基地はいらない！

南西諸島にミサイル基地をつくるな！ 核のない世界へ！

万博中止！震災復興に全力を！ 金権腐敗の自民党政治を終わらせよう！

##### 輝け！憲法 平和といのちと人権を おおさか総がかり集会

日 時：2024年5月3日(金・休) 13:45 開会

※終了後・市民パレード

場 所：扇町公園

〒530-0025 大阪府大阪市北区扇町 1-1

Osaka Metro 堺筋線「扇町駅」下車すぐ

内 容：

- ・オープニング・ライブ Swing MASA さん
- ・立憲野党からの連帯挨拶
- ・スピーチ 川崎哲さん「終わりの見えない戦争～平和をどう創りだすか」
- ・市民各分野からのスピーチ
- ・終了後市民パレード

主 催：おおさか総がかり行動実行委員会

#### II 平和と登山全国集会

■期 日 2024年6月29日(土)～30日(日)

■会 場 集会：「東京セントラルユースホステル」電話：03-3235-1107(東京都新宿区・飯田橋西口直結のセントラルビル18階) 宿泊：ユースホステル、全国連盟事務所

■最寄り駅 JR 飯田橋駅 徒歩5分 東京メトロ飯田橋駅 徒歩5分

■講演講師 野口邦和氏(原水爆禁止世界大会実行委員会共同代表)

■参加対象 労山会員、他希望する人全員

■募集人数 会場参加80名(日帰り参加者含む)、ZOOM参加者は人数制限なし

#### III 2024年度平和大行進の日程、コース。責任団体

(1) 日程は昨年どおり、6月30日に柏原市で奈良県から受け継ぎ、7月7日に兵庫県へ引き継ぐ。

(2) コースは、昨年のコースを中心に地元と相談して決める。

### (3) 責任団体

{幹線コース}

- \* 6月30日(日) 柏原市役所～東大阪・岩田公園(大阪原水協)
- \* 7月1日(月) 河内長野市役所～松原市役所(大教組)
- \* 7月2日(火) 泉佐野市役所～和泉市役所(大教組)
- \* 7月3日(水) 和泉市役所～堺市役所(自治労連)
- \* 7月4日(木) 住吉区役所～旭区役所(大阪民医連)
- \* 7月5日(金) 守口市役所～枚方市役所(自治労連)
- \* 7月6日(土) 高槻市役所～吹田市役所(自治労連)
- \* 7月7日(日) 豊中市役所～川西市役所(大教組)

# 自然保護だより

自然保護委員会委員長 沢村秋則

1. 憲章の実践 4月16日現在 沢村：[sawadesu@ares.eonet.ne.jp](mailto:sawadesu@ares.eonet.ne.jp) までお願いします。
  - + 鳥獣・らいちょう目撃レポート  
目撃日時、場所、天候と動物の様子をメール下さい。写真があれば最高です。  
ただし、標高500m以上での目撃に限ります。 ( ): 前期  
らいちょう 0件(18件) 鳥獣 1件(4件) 昆虫 1件(1件)  
3/11、泉州労山の山中さんが槇尾山でアサギマダラの幼虫を目撃、激写に成功。  
3/15、同じく澤村がきぬがさ山ハイクの際、田んぼでトンビ10羽ほどを目撃、激写に成功。
  - + 倒木対策 2件(13件)  
登山道を塞ぐような倒木は、登山者にとって危険、また踏み荒らしの原因です。  
除去および頭突きしそうな木にはテープで表示を！自治体および私に連絡を。  
3/30、雲山峰の倒木を大阪府に連絡。業者の処理を確認、しかし、数本危ない倒木あり。  
テープ設置 2本実施。 大阪府森林課に報告済み  
4/18、和泉葛城山の倒木を岸和田市に情報したところ、翌日にノコギリ処理済の報告アリ
2. クリーンハイク 6月2日(日) 主担当の実施情報確認済(山域、日程、連絡先など)  
実施山域：去年と同じ26か所 4月22日の週に自治体に協力要請文書郵送の予定
3. 自然保護交流会 倒木対策(ヤマザクラ観賞会付き) 八尾：1人、豊中：1人 泉州：8人  
日 時：3月30日(土) コース：JR 六十谷駅～奥辺峠～大福山～雲山峰～JR 山中溪駅  
内 容：倒木調査および赤テープ設置 ヤマザクラは不発
4. 里山一斉調査ハイク 主催：大阪自然環境保全協会
  - \* 4月6日(土) 泉南・畔の谷 あなぐま居住地、たんぼぼ、くまぜみ、食虫植物などのお話  
満載、写真付き報告は泉州労山ホームページのブログをご覧ください
  - \* 4月7日(日) 箕面・聖天山～オケ原 豊中：2名 カスミサンショウウオの卵、くろた  
にかけろ：水がきれいなところ(虫 3cm) などのお話あった
  - \* 4月14日(日) 八尾山の会・高安山 4人 子供2人 四条畷：5人 に参加の予定
5. タンポポ調査 主催：大阪自然環境保全協会などの実行委員会  
期 間：3月1日～5月31日 (来年も同期間)  
目 的：野山、住宅地のタンポポを採取しDNA検査で関西タンポポ、西洋タンポポの分布を明  
らかにし、自然環境の変遷の調査を行う  
内 容：タンポポを採取し、必ずチッシュで包み、調査用紙に記入し投函する  
事務所に回収箱設置 切手代、半額または全額補助、最大5000円
6. 自然保護交流会 和泉葛城山・ニリンソウ観察会  
日 程：4月29日(月) 8時45分 水間観音駅集合
7. 近畿ブロック自然保護交流ハイク：友が島ごみ調査  
日 程：10月18日(金) 集合場所など詳細は後日決定  
友が島はゴミの宝庫、木くず、プラスチック、缶、ピンはては冷蔵庫まで、斜面には風に吹か  
れた発砲スチロールが点在、雪と間違えそう。これらを回収し分類、調査します。
8. 自然保護交流会 岩湧山で自然観察会  
日 程：11月23日 集合場所、時間は後日決定  
講 師：田中正視 環境省自然公園指導員、きしわだ自然資料館専門員、元大阪府立高校教師  
単に植物、動物のお名前の紹介だけではない。それらにまつわる歴史および人との関係など  
のお話が面白い。

## 大阪労山「山の教室」

講座の種類に関して、事務所だけの座学、リモートのみ、事務所とリモート併用、実技の4種類になりますのでご注意ください。受講履歴は事務局で管理されていますので、各会の中で受講履歴の把握等が必要であれば下記アドレスに遠慮なくお申し付けください。

kyouikusoutai@osaka-rousan.com

※3 講座の日程変更があります。ご注意ください。

5/6・12 ハイキングレスキュー リーダー編 →5/24・26

9/3・8 アルパインクラimbingのための確保 → 10/1・6

10/1 パーティー論リーダー論2（法律） →10/22

### ◆今年度日程

日程	科目	種別	主講師	主担当	受講料	定員
4月10日(水)	山の気象をどのように予想するか	リモート	河野仁	高田和孝	¥500	—
4月16日(火)	ハイキングレスキュー 入門編	座学	木村治朗	三宅康文	¥500	15
4月21日(日)	ハイキングレスキュー 入門編	実技	木村治朗	三宅康文	¥1,000	15
5月18日(土)	地形図の読み方 入門編	座学	脇阪	西本良夫	¥1,000	12
5月19日(日)	地形図の読み方 入門編	実技	脇阪	西本良夫	¥1,000	12
5月21日(火)	パーティー論リーダー論1（概論）	リモート併用	中川和道		¥500	—
5月24日(金)	ハイキングレスキュー リーダー編	座学	木村治朗	三宅康文	¥1,000	10
5月26日(日)	ハイキングレスキュー リーダー編	実技	木村治朗	三宅康文	¥1,000	10
6月4日(火)	遭難事例研究（無雪期） 入門編	リモート併用	中川和道	疋田吉継	¥500	—
6月12日(水)	応急手当 入門編	座学	柳川憲一	木村治朗	¥500	20
6月18日(火)	夏山の気象	座学	山本賢治	高田和孝	¥500	20
7月2日(火)	遭難事例研究（無雪期） 応用編	リモート併用	中川和道	疋田吉継	¥500	—
10月1日(火)	アルパインクラimbingのための制動確保 入門編	座学	中川和道	富永 公夫	¥500	12
10月6日(日)	アルパインクラimbingのための制動確保 入門編	実技	中川和道	富永 公夫	¥1,000	12
10月22日(火)	パーティー論リーダー論2（法律）	リモート併用	中川和道		¥500	—
11月9日(土)	地形図の読み方 スキルアップ編	座学	脇阪	西本良夫	¥1,000	12
11月10日(日)	地形図の読み方 スキルアップ編	実技	脇阪	西本良夫	¥1,000	12
12月3日(火)	遭難事例研究（積雪期） 入門編	リモート併用	中川和道	疋田吉継	¥500	—
12月17日(火)	遭難事例研究（積雪期） 応用編	リモート併用	中川和道	疋田吉継	¥500	—
1月15日(水)	冬山の気象	リモート併用	高田和孝	山本賢治	¥500	—
1月21日(火)	山の病気予防	座学	中川和道		¥500	20

## ◆5月・6月の講座

### ➤ 地形図の読み方（入門編）

日時：5/18（土）13:00～17:00（座学） 5/19（日）9:00～15:00（実技）

場所：5/18（座学）連盟事務所 5/19（日）近郊の里山

費用：各講座 1,000 円

申込：<https://ws.formzu.net/dist/S14894936/>（4月から）

※座学と実技をセットで受講ください。〔片方のみの受講はできません〕



山の中での道迷い遭難などを無くし、登山を安全に楽しむために、地形図を読む力を身につけましょう。スマホの地図アプリはとても便利ですが、それだけに頼るのは不安だと思っている方は多いでしょう。地形図が読めるようになると、山へ行く前に、歩くルートはどのようなところか、危険なところ、道に迷いやすそうなどころはないだろうか、などについて知ることができ、対策を考えておくこともできます。（地形図とは、国土地理院の2万5千分の1地形図のことです）

① 座学は、土曜日の午後、途中休憩をはさみながら4時間ほどを予定しています。

等高線とその読み方（尾根や谷、ピーク）、磁北線の引き方、ベースプレートコンパスの使い方など、初めて読図を学ぶ方向けに基礎から分かりやすく学べる講座です。

② 実技は座学の翌日、近郊の里山へ登ります。周りの地形から地形図上の現在地を考えたりして、等高線の奥深さを少しずつ理解していきます。地形図を読む楽しさをぜひ体験してみてください。なお、実技では、日帰りハイキングコースを標準タイム程度で歩ける体力が必要です。

### ➤ パーティー論リーダー論1（概論）座学

日時：5/21（火）19:30～21:00

場所：連盟事務所（Zoom 併用）

費用：500 円

申込：<https://ws.formzu.net/dist/S47985523/>



山に登るにはリーダーが必要です。カリスマリーダー、持ち回りリーダー、輪番リーダーという言葉聞いたことがありますか？コーチとリーダーはどう違うのでしょうか？ガイドとリーダーの違いは？パーティーのメンバーとリーダーの関係は？大阪労山の事故のなかでの実例（文献1）をもとに考えていきます。滅私奉公のリーダーは、いやなもの。持ち回りリーダー、輪番リーダーをめざしていきませんか？

できましたら、以下の文献を読んできていただくとう有難いです。文献1～3が手に入らない方はご相談下さい。

[文献1] 大阪府勤労者山岳連盟『事故防止は仲間の知恵で[訂正版]』（2021年9月発行）。

そのうち2015-9(p.54)、2015-10(p.54)、2016-4(p.111)を抜粋して考えていきます。

[文献2] 『岳人』2012年10月号：特集「2012年のリーダー考」

[文献3] 「大阪労山ニュース」2016年10月号 中川和道「大阪府連における登山者養成：大阪の新たな挑戦2016 その1」

➤ **ハイキングレスキュー（リーダー編）座学/実技**

日時：5/24（金）19:30～21:30（座学）5/26(日)9:00～15:00（実技）  
場所：5/24（座学）連盟事務所 5/26（日）奥山雨山自然公園（日根野集合）  
費用：各講座 1,000 円  
申込： <https://ws.formzu.net/dist/S1104490/>（4月から）  
※原則として実技と座学セットで受講してください。



リーダーとしてメンバーにお助 4 点セットの使用方法を教えられるレベルを目指します。その上で危険個所の通過時にリードとして FIX ロープを張る。またそれをビレイする。メンバーに指導してそこを安全に通過させる等の一連をリーダー、サブリーダーとして確実にこなせるよう練習します。

※リーダー編では入門編とするロープワーク等の指導はしません。基本的な事はできるというリーダー向けの講座です。また極力事前に入門編を受講ください。

➤ **遭難事例研究（無雪期）入門編 座学**

日時：6/4（火）19:30～21:00  
場所：連盟事務所（Zoom 併用）  
費用：500 円  
申込： <https://ws.formzu.net/dist/S11694473/>（5月から）



事故に遭わないためには、他人の事故から教訓を学ぶことが有益です。ところが事故の雑誌記事や事故報告書はなかなか読みにくいもの。そこでこの講座では「どう読み込めばいいか」の事例を講演します。会社などで事故分析に使われていたツリー分析という図形を使い、パワーポイントなどで分かりやすくお話ししますので、初めての方もご安心下さい。

今回の事例は…

A：トムラウシ山遭難（2009年7月16日）：低体温症で8人死亡した事故です。

[文献1]「トムラウシ山遭難事故調査報告書」でWEBを検索。

[文献2]羽根田・飯田・金田・山本「トムラウシ山遭難はなぜ起きたのか」ヤマケイ文庫 2012

B：北岳滑落遭難（2007年6月）：生還の教訓を学びます。

[文献1]羽根田治『滑落遭難』（ヤマケイ文庫 2013年）p. 172

➤ **応急手当 入門編**

日時：6/12（水）19:30～21:30  
場所：連盟事務所  
費用：500 円  
申込： <https://ws.formzu.net/dist/S24785920/>（5月から）



山で仲間がけがをしたりや病気になったとき「何をしたらよいかわからない」「かえって悪化させるかもしれない」との思いから応急手当に踏み切れないということがあられるようです。この講習会ではそのようなことがないように JPTEC のテキストに準じて傷病者への対応手順を学びます。また傷病者への取りつき方、頸椎保護、回復体位、けが（洗浄、止血、ドレッシング）、よくあるねんざ・骨折の手当、熱中症対策などを皆さまと一緒に勉強しましょう。

➤ **夏山の気象 座学**

日時：6/18（火）19:30～21:30

場所：連盟事務所

費用：500 円

申込：<https://ws.formzu.net/dist/S69930015/>（5月から）



夏山の気象に関する基礎的な事項を夏山の特徴をまじえながら解説をします。また、一般に入手できる地上天気図、高層天気図、天気予報などから、それぞれ何に着目して山の天気をどう予想するかを解説します。

# プルビチャチュ 6658m世界初登頂 42 周年記念集会のまとめ

ボランティア事務局 中川和道

1. 2024/3/10 府連総会終了後に国労大阪会館にて、連盟行事として開催。参加は約 40 名。登山隊員 7 名(安田一郎隊長、滝上肇副隊長、藤川櫻彦マネージャー、黒川慎太郎登攀リーダー、西岡孝隊員、小川史人隊員、山野(河野) 純子隊員)、記念講演者 1 名、ボランティア事務局 1 名、他府県連 2 名、大阪府連約 30 名、その他 2 名。記念講演と隊員トークが行われた。懇親会には大井チズ子隊員も加わって 28 名が参加。盛会であった。
2. 記念講演(近藤和美氏「高所登山 これまでとこれから」60 分)の要旨：(1)宗教的登山から近代登山への発展において、日本では、大学生登山→大衆登山→労山の誕生と発展が高所登山でも→ネパールの登山家(ガイド)の自立→(2)8000m 峰は商業化により「はとバス化」あるいは「槍ヶ岳化」したが、それ以外では自前登山／自立登山が健在。両者を有意義に使い分けることが推奨される。(3)6000m 峰では未踏の山(登攀の要素がつよい、無名峰もある)がまだまだ挑戦を待っている。
3. 隊員トーク：隊員 7 名により、事前の座談会で出された発言を、台本を作って構成された。登山報告書『プルビチャチュの蒼い氷』には載っていなかった墜落(高度 6200mの青氷ルート工作中)を制動確保で無事に停めたことなどが新たに付け加えられ、紹介された。大阪府連の歴史にさん然と輝く出来事であったことが生き生きと語られた。
4. 取組み方については、大阪府連執行部には「連盟行事とし、若いクライマー若い労山会員も巻き込んだ共同財産に」をめざして 300 枚ものチラシを配布などもしたが、「年寄りの回顧の集まり」との見方を打破できなかった。大阪府連で言えば、救助隊・中級登山学校・初級登山学校・セミナーなどから実行委員を出してもらって「実行委員会形式」で進めるなど、工夫が必要であったとの声も出された。
5. 登山隊はこの機に「記念会」(プルビチャチュ初登頂記念会)を発足させ、記念活動を続けたいとの意向である。歴史に残したい。

# プルビチャチュ 6658m世界初登頂 42 周年記念集会 記録

ボランティア事務局 中川和道 20240310

- ・ 2024 年 3 月 10 日 国労大阪会館 15-17 時
- ・ 隊員 7 名 事務局 1 名 記念講演講師 1 名 他府県連 4 名 大阪府連会員約 30 名 計約 40 名
- ・ 記念講演+隊員トークの録画 4 時間分 あります 問合せ：中川 climber-nak@bca.bai.ne.jp

## あいさつ

安田：プルビチャチュ登山隊隊長の安田一郎です。私から大阪府勤労者山岳連盟の顧問の中川和道さんに打診しましたところ、プルビチャチュ初登頂 42 周年の記念集會を、連盟行事として、本日、開催していただくこととなりました。登山隊を代表して厚くお礼申し上げます。

司會を中川さん、よろしくお願ひします。

中川：中川です。私は登山隊メンバーではありません。登山隊と連盟を結ぶ「ボランティア事務局」として司會進行をします。

本日の記念行事では、15 時から記念講演 1 時間、近藤和美(かずよし)さん「高所登山 これまでとこれから」、16 時からは登山隊隊員トークを 1 時間弱、18 時からは懇親會を行います。



\*\*\*\*\*

## 記念講演

では、記念講演を始めます。近藤さんの紹介をさせていただきます。

近藤和美さんは、82 歳の現役の高所アルパインクライマー。お配りしましたリストのとおり、3000m 以上の山に 115 回以上も登られ、数百人を高所に導いてこられました。

1972 年 30 歳の時、ヨーロッパで海外登山を始められました。1976 年、マイクトリ・デブトリ(約 6800m)で、ヒマラヤで初めての交差縦走を実現。その創造性に、中川は、度肝を抜かれました。旧ソ連邦の 7000m 峰 5 峰を全部登り、スノーレオパード(雪豹)称号を、1991 年



に、旧ソ連邦以外では世界で唯一、授与されました。8000m 峰の最初は 1992 年のチョーオユー。これを皮切りに、8000m 峰への挑戦は 24 回。エベレストを含め 8000m 峰の 9 座に登頂。日本人第 2 位。61 歳でのガツシャブルム II 峰は 8000m 峰での日本人無酸素登頂最高齢記録です。昨年 2023 年にも、登頂はなりませんでした。81 歳でアンナブルナ I 峰 8091m に挑戦され、その記録を配布資料にして下さいました。

記念講演のタイトルは、「高所登山 これまでとこれから」であります。近藤さん、よろしくお願ひいたします。配布資料：パミール テンション 16 6500-7000m23 8000m24 その他 52 計 115 峰

\*\*\*\* 以下、記念講演 \*\*\* 記録は別掲とします \*\*

## 隊員トーク

中川：では、隊員トークを始めます。本日は、隊員のうち7名が前列に着席しております。この隊員トークには、記念講演「高所登山 これまでとこれから」をやっていた近藤和美さんもご同席下さいます。

山の紹介、Google Earth でやります。画面をご覧ください(Google Earth 展開)。ネパール語でブルピチャチュの意味は、カトマンズ近郊から見て「東の方向の大きなこうもり」。素敵な名前ですね。中川は、これを見て、こんな難しい山を、よく、登ったな、との感慨をもちました。

中川：まず、登山の概要です(写真1)。1982年、42年前、労山大阪府連16名はネパール登山協会3名と合同登山隊を組んでヒマラヤの未踏峰ブルピチャチュ6658mに挑みました。第1次隊7名が5月1日、世界初登頂。5月3日に第2次隊9名も登頂。合同隊19名のうち16名が登頂を果たしました。

アルパインクライミングとしてすごいだけじゃありません。大阪労山の歴史にさんげんと輝く成果、未来に引き継いでいくべき成果であります。関係者は今や高齢の域。今回、関係者を、今の仲間、若者を含め、今の仲間、当時の意気込みをたどり、我が大阪労山の将来を展望する糧としたいものです。

中川：隊員紹介と役割分担の紹介です。ベースキャンプ集合写真です。名前をお呼びします。挙手ご起立いただき、現在の顔見せをお願いします。

[中川:投映画面の顔を順次拡大]隊長安田一郎さん→副隊長滝上肇さん→マネージャー藤川櫻彦さん→医師野納邦明さん札幌在住→登攀リーダー3名(黒川慎太郎さん 竹沢一誠さん他界 岡本浩光さん本日ご不在)→隊員(伊原弘晏さん本日ご不在 装備係服部功さん他界 撮影西岡孝さん 大井チズ子さん本日ご不在 食料チーフ山野(河野)純子さん 清水久信さん他界 荒木香さん本日ご不在 新垣(しんがき)隆さん本日ご不在 この写真撮影をされた小川史人さん)。本日ここには7名がご出席です。次に、ネパール隊からリエゾンフィサースンダールさん ネパール登山協会から

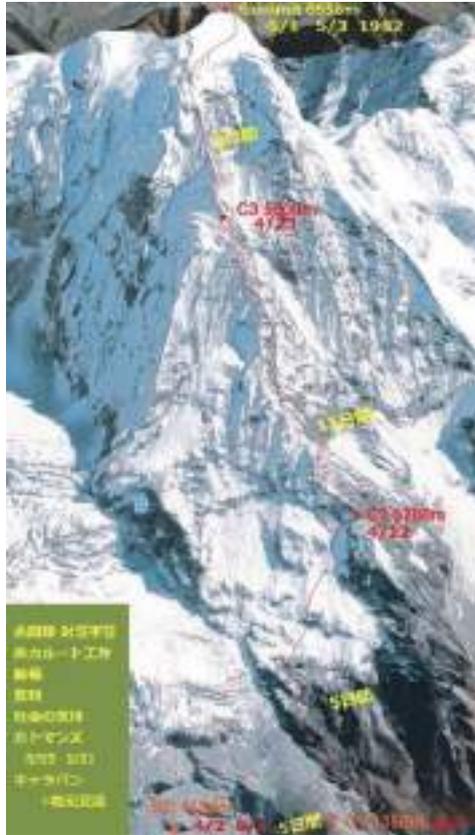


写真1 登山ルート、日程、トークの5項目



3名アンブリさんサードー ベンバさん ミンマさん。登山隊 19 名中 16 名がサミット。すごいですよね。

中川：それでは、日程概要です。画面(写真 1)を見て下さい。

カトマンズに入ったのが 3/22、山からカトマンズに戻ったのが 5/11、約 2 ヶ月もの登山でした。BC から C1 に 5 日、C1 から C2 に 5 日、C2 から C3 に 11 日、C3 から頂上まで 8 日の約 30 が登攀期間でした。BC4150mに入ったのが 4/2。登山隊が初めて名付けた「南西稜」、これを登りました。C1 4350m建設が 4/7、C2 5200mが 4/12。ここから岩稜帯という手ごわいルート工作 11 日、全ピッチに固定ロープで 4/23 に C3 5800m。かちかちの青氷アイスキャップを 8 日かけて突破し、5/1 に 7 人が 6658m世界初登頂。連盟前会長の西村晃一さんは、メーデーだ、めでたいと。5/3 第 2 次隊 9 名が続いて登頂。この 5/3 は憲法記念日。ほぼ毎日、午後は雪だったのに、この 3 日間は、何と、好天だった。「天気運も実力のうち」そのものです。



中川：隊員の方々から、これら 5 つのテーマ(合同隊-対等平等、自力でルート工作、装備食料、社会からの支持、現地交流)について、隊員トークをお願いしていきます。

中川：この隊の特徴は、第 1 に合同隊。大阪府連とネパールとの合同隊でありました。労山全国連盟のヒマラヤ隊以来、合同隊でやるのが定着。安田隊長、対等平等、やってみて、いかがでしたか？

安田：はい、ヒマラヤ登山になくなくてはならないシェルパの人たちを単なる使用人というのじゃなく、対等平等、これは大切なことだと思いました。こういう対等平等の関係が、近藤和美(かずよし)さんが講演された「ネパール人登山家の自立」につながればと思います。

中川：ガイドに固定ロープを張ってもらわんじゃなく、対等平等にルート工作をした。全部で 4000m もの固定ロープを運び、合同隊全員で張りました。スノーバー 100 本アイスハーケン 100 本ロックハーケン 100 枚ボルト 30 本、ワイヤーばしご 2 基。搬入した装備食料は 2.3 トン、総費用 1300 万円。連盟では 6 年前から研究会を立ち上げ(写真)、2 年前 1980 年の府連総会で実行を決定。半年前から隊員募集とトレーニング。半年で 1000km ランニング。人工登攀でのルート工作に備えて屏風岩東壁ルンゼなどを登られたのですね。半年間で 1000km ランニング達成は 2 名、伊原さんと藤川さん。大井さんも寸前に迫った。大井さんは女性だけのパーティーで屏風岩から滝谷へと登っておられた強者(つわもの)です。では、1000km 達成者のおひとり、藤川さん、1000km とは？



藤川：はい、もともと陸上中距離ランナーでしたから、1 回に 6、7 キロ走りました。健康診断では、城東診療所から大阪城まで往復 20 キロ走って、心電図を取る方式でした。全員合格です。

中川：城東診療所の木下先生が、安静時の心電図じゃだめだ。走ったあとの心電図をとるのだとおっしゃった。そういう診断だったそうですね。

中川：社会の支持があった、この話をお願いします。教育委員会に推薦もらってネパールの学校、これは推薦

もらってネパールの学校、この写真はゴダワリ小学校の子どもたちから絵を受け取って、これは、波除(なみよけ)小学校の絵を箱詰め

しているところ。藤川さん。

藤川：今も我が家にネパールの子供の絵が8枚ほど残っています。写真はその1枚です。



中川：何度も何度も重ね書き。すごく丁寧です。

中川：教育委員会からの推薦を活用した。「教育委員会から

推薦をもらっているんだから」と会社に休暇申請。何しろ期間が60日近い休職願。退職じゃないのがすごい。

1982年頃は、ヒマラヤに初登頂をという、珍しがつて下さったんですって？服部功さんが、大阪労山50周年記念集会で語られました。「まるでハイエナのように企業を回った。いろいろくれた」と、いたずら小僧のような目で語った。あのお顔を、中川は忘れることはありません。

会社がいろいろくれた。前田のクラッカー、チキンラーメン。他には？

そうそう、プルビチャチュ隊は、タバコも持って行った。それもカートン単位で大量に。西岡さん。

西岡：専売公社へ行って取りに行ってくれと言われて取りに行きました。そこでは、海外親睦用チラシにタバコがあり、そこで内容がわかりました。何カートンあるかわかりませんがダンボール箱、一人でやっと抱えてもって帰り、現地ですべて渡していたように思います。そのたばこ日本製は人気があったように思います。

中川：藤川さん。靴のほか軍手とか、軍足(木綿製の靴下)ももらったんだそうですね。

藤川：プレモンスーンなので、BCの下から雪がある事が想定されたんで、私の職場の多数の人から寄付いただいて、ポーター150人分持って行きました。

キャラバンの後半、実際に雪が出て来て、騒ぎになりましたが、皆に配って、無事BCまで荷物をあげることが出来ました。やはり準備は大事です。

中川：山野純子さん、食料チーフの山野純子さんにお聞きします。大阪で、社会の支持は？

山野：いろんな会社から、また労山から、暖かい支援をいただきました。例えば、日清のインスタントラーメン、ハウスのレトルトカレー、大塚のポカリスエット、ジフーズなど。細かい所では、梅干し、ふりかけなどなどです。

卸売り市場に出向いた折り、乾物会社の社長さんから「頑張れよ！」と思いがけず1万円頂きまして、ジーンと来ました。

こうして集まった品物が事務所に次第に山積みになって行くのを見ると、『これは本当に1人でもいから登頂せなアカンな』とプレッシャーがかかったのを覚えています。結果として大人数の登頂ができて、ホッとしました。本当に良かった~~~~！です。

中川：小川さん、社会の支持について、ご紹介下さい。60日もの休暇がとれた状況は？隊員みんなを代表して・・

小川：休暇を許してくれる、今よりも、ゆとり(包容力)がある社会だったのかなあ・・・。

中川：ここからは、ルートの取り方や成功率の見込みなど、作戦についてお聞きます。

中川：ルート原案決定の中心になられた副隊長の滝上肇さん、81年の偵察隊 伊原弘晏さん  
橋本克彦さん 井波美保さん、3名が持ち帰られた写真でルート原案を決めた・・・。

滝上：はい、原則は「ナダレの危険が最も小さいルート」。少し前に私が大山北壁でナダレにやられて数百m流され、やっと生還した。大阪府連は、鹿島槍ヶ岳でもナダレで2重遭難にやられた(1974、これが救助隊結成の動機となった)。だから、「ナダレの危険が最も小さいルート」を考えた。偵察隊の写真には写っていない所があって、現実には、修正が必要でした。

中川：では、登攀ルート図の区間ごとにお聞きしていきましょう。まず BC～C1、C1～C2 を、安田隊長。

安田：4月2日にはベースキャンプを設営しました。4日にはプルビチャチュの全容が見える4400m地点まで出掛けました。

中川：この写真ですね。ここに一列で登ってる。

安田：そして登攀ルートを目で追ってみました。5日には氷河を渡り、上部のアイスフォールが崩壊しても直撃を避けられる場所をC1キャンプ4350mとしました。6日にはキャンプを設営してほっとしました。そこで、C1キャンプの上にある岩場を「大岩」と名付けました。

中川：この写真です。

安田：大岩は傾斜が70度くらいで、大岩を乗越しててっぺんに出た時、初めて、雪田が南西稜につながっているのが分かった。それで「行ける、これは成功できる」と確信したのです。

中川さん提供のこのGoogle Earthは10月30日撮影。私たちが登ったのは4月から5月。ネパール隊員から「今年は雪が多い」と言われました。ほぼ毎日、朝は晴れていても午後からは雪が降って雪崩の危険がありますが、腰まで埋まってラッセルしていました。積雪のためロープが埋まったり、ラダー「15mワイヤー梯子」を掛けました。

中川：この写真がそのラダーです。荷揚げしています。

安田：4/12にキャンプC2、5200mを建設しました。

中川：この写真です。

安田：6人用テント1張り。この南西岩稜を登れば登頂だ！万歳！という明るい展望が生まれました。

中川：未踏峰だから、取付く時は情報のすべてはそろっていない。隊長は、勝率は何割だと？

安田：日本では60%でした。81年に調査隊を出したあと、あらゆる角度から登頂の可能性を検討しました。頂上に延びる南西岩稜が一番いいのではないかと考えました。が、その時点ではアイスクャップの状態(雪なのか青氷なのか)がよくわかっていませんでした。ですから、BCでの勝率と言われれば、70%～80%でしょうか。



中川：次はC2～C3の、ここ岩稜帯11日間。手こずりました。先頭に立たれた竹沢さんたちが今はおられません。写真は、ルート工作に向かう隊員一同。ひとり群を抜いて強い。では、荷揚げのご苦労を、西岡さん。



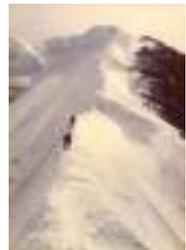
西岡：C3テントを張ったとの知らせに、燃料のガスカートリッジと食料をC3に運び入れる必要がありました。C2にあるその荷物をC3までは、距離が長くて標高が上がる。行って帰ってくるのは体力的にも高度順応にもまだ無理でした。



中川：写真ではこんな調子。標高5700mとか。

西岡：だから、C3からとC2との中間地点で荷物の受け渡しをしました。下からの無線からも同時スタート、相手が見えたときは感無量で、いい考えだと思いました。5人ずつだったと思います。

中川：次は、C3からの青氷とアイスクャップから頂上までの8日間。黒川さん、頂上まで、ご紹介下さい。写真を4枚みて下さい。登ってみたら、青氷だった。ヒマラヤの青氷は本当に硬いんですね。厚い鉄板の上をアイゼンが滑るみたいな。ピッケルでステップをカッティングなさった・・・。



黒川：はい、一撃ではとても切れなくて・・・。細かい粉がキラキラ飛び散るんですが、ステップはちっとも広がらない。何しろ15人以上が登るんだと思って・・・。腕が疲れて、1日、休養しました。



そうそう、青氷の途中で、アンプリが「ここは危ない。あなた、登ってくれ」っていうんです。私がリードで登りました。でも、あと30cmが、どうしても登れない。その日は、そこで下りてきて、次の日に突破した。そんなこともありました。



中川：岩稜帯やアイスクャップで大活躍したという、「ゴキブリ5人衆」って、何ですか？藤川さん。

藤川：ゴゴキブリ5人衆とは？藤川、岡本、竹沢、

清水、伊原、の事らしいです。私以外ここにいないので、私が話します。

ルート工作って、1回で行かないんです。登りつつロープを張り、終わって下って見ると、必ずしも合理的で無い。又、登り返して張り直す・・・。これを何度も繰り返して上に下に右に左にゴキブリみたいにチョロチョロしたので、そんな5人を見て、名付けられたのかな・・・？と思ってます。チョット、ゴキブリはイメージ悪いけど・・・。

中川：ゴキブリ5人衆、何か、そのままやけど、行動能力の高さに対する尊敬やで、そりゃあ。

中川：さて、いよいよ頂上雪原です。黒川さん。

黒川：はい、アイスクャップを越えたら、本当に広がった。写真のとおりです。



中川：「山と仲間」に発表なされたルート  
図（この写真）には「甲子園球場」って。

誰やねん、あれ、書いたんは？黒川さ  
ん？ですか？

黒川：私じゃないかなあ。

中川：ロープは足りたんですか？

黒川：いいえ。フィックス用のロープ 4000  
m は、もう残ってなかった。

中川：この写真のこの左が頂上。頂上までは、足りない。

黒川：はい、それで、クライミングロープを使って、頂上までやっと届いた。さらに、スノーバーも使い果たして、残っていなかった。うーん、と考え、自分のアイスバイルを打込み、それを残置しました。えい、記念だ、置いてやれって。

中川：おお、黒川バイルが山頂に残ってる。そりゃ、値札付きですなあ。拾いに行こうかな。

安田隊長、隊長は、この事態、をどう把握しておられたのですか？

安田：隊長への無線では、ザイルは少し残っているが、アイスハーケンやスノーバーなどがほとんどない、とのことでした。「足りなくなったために登山が打ち切り」となるのが心配でした。だからアイスクャップにルートが完成したと無線が入ったときは、これでルートが開けるぞ、と胸をなでおろす気持ちで、成功を確信しました。

黒川：これが初登頂の写真です。第1次隊7人が5/1に  
世界初登頂しました。

中川：おめでとうございます。誰と誰ですか？

藤川：左が小川、右が岡本です。

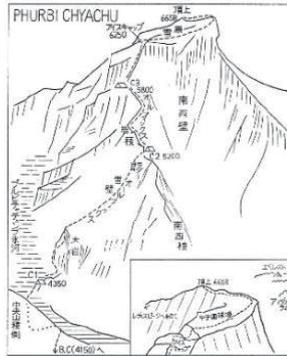
中川：さて、5/3には第2次隊9名が登頂を果たしま  
す。藤川さん。

藤川：はい、まず、この一人の写真は西岡です。次の写真は、左から、  
藤川、安田、服部、河野です。

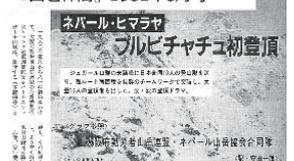
次の写真の「山と仲間」の記事の、第2次登頂隊の行動記録は私が  
書いたものです。第1次登頂隊が登頂を果たし、安堵感が胸いっぱい  
に広がりました。そして、今度は2次隊の出発です。ただ、天気が3  
日も、もつかどうか、ただただ、天気が心配でした。

中川：見出しには「涙・涙の登頂ドラマ」と。「山と仲間」当時の編集部は  
近藤和美さん。こんな感情前面の見出しを、ほんまに、つけはったんかいな？  
と思ったんですが。涙・涙の登頂、これは、藤川さんの地声ですか。

藤川：はい、まだ頂上に達していない河野純子が登りながら泣いているんで



『山と仲間』1982年8月号



す。みんな泣きました。私は思いました。1975年、海外委員会活動から始まった。1000km 走ってきた。その先にこそ、目の前の、この頂があるのだと。「山と仲間」に書いたとおり、涙・涙の登頂でした。

中川：本当に、おめでとございました。



中川：隊は下山。これは到着当時のBCかな？ 5/5 BCに集結した時にはもう、雪はなかったんでしたね。登攀期間は31日でした。

中川：3つの話題を語って下さい。食料、撮影、墜落。

話題1つ目は食料。食が足りれば万事おさまる。食料チーフ、カナ・サブっていうんですよね、山野さん、食料は・・・

山野：食料担当としては、カトマンズに帰り着くまで過不足のない食事提供が第一、その点はかなり注意しました。



ひとつ、食料のエピソードを。ベースキャンプで、

ある時、安田さんが改まった様子で私の所へ来られたのです。『何か問題でも…』と私も身構えたのですが、何の事はない『もっとコーヒーを多く出して』と云うリクエストでした。どうやら、コーヒー好きのメンバーが、おっかないカナ・サブにコーヒーの交渉をと、安田さんを担ぎ出したみたいでした。もちろんOKしました。が、ルート仕事をバンバンやってるメンバーがコーヒーの交渉を安田さんに頼むなんて、なんか可愛いなと思いました。

中川：かわいい・・・？！

山野：それにしても、私ってそんなに怖かったんでしょうかネ～？黒川さん！

全員：ハイ！とっても！

会場：(笑い)

中川：話題2つ目は、撮影。西岡さん、報告書に書かれましたね、あの本音。

西岡：最初は登攀中に撮影はしたくなかった。今まで撮影中に事故は他人ですが何回か遭遇しています。

足下の注意力が散漫になると思います。でもカメラマンを雇う話があり、些少なから仕事にもしていますので、私がやりますと言っちゃいました。その時は、デジタルカメラはなく、アナログフィルムカメラ6×7ブローニサイズと、8mmアナログムービーカメラでした。やはり重たく、フィルムの入れ替えも多く、ピッケルを雪面にさしてザックをかけ、ザックの中で雪が入らぬように、よく入れ替えました。アイスキャップ直下での8mmムービーの撮影の時、これから登頂するときこんなことしていいのか、ちょっとよぎりましたが、私の使命がしたと思います。しかしあそこは怖かった・・・

中川：話題3つ目は、墜落を停めた。6200m付近のアイスキャップで、青氷のルート工作の途中。リー

ト藤川さんが10mくらい落ちたのを、ピレイヤー伊原さんが止めた。藤川さん。

藤川：馬ノ脊のような氷の急登でした。15人も登るので、氷を削って足場を作るため、ピッケルとバイルでカッティングしていて、スリップして左に落下しました。アイスハーケンを打っておいたので良かった。伊原さんもベテランです。うまく制動を掛け、ハーケン抜けを防いでくれたので助かりました。ボディービレイでしたので、ザイルが擦れた個所のヤッケが溶けてました。

中川：10mくらい落ちたんだそうですね。よく止められました。百丈やぐらを建設し確保訓練を推進してこられた滝上さん。ヤッケが溶けた、とは・・・。

滝上：ヤッケが溶けたのは、制動確保に成功して少し流したからやな。もし固定確保とかやって大事故になっていたら登山は中止だった。2人の日頃の修練のおかげで無事故となり、世界初登頂につながった。みなさん、制動確保の練習をしましょう。

中川：武勇伝ですなあ。

中川：時間が尽きました。隊員のみなさまから、大阪労山の仲間、とくに若い仲間に向けて、お願いします。

西岡：呼吸法について。息を吐く時、口をすぼめる。圧が上がるのだと思う。ろうそくを吹くイメージだという人もいる。海女さんが海面に上がって「笛を吹く」という。あれもそうなのだろう。参考にして下さい。

中川：近藤さん、呼吸法について。

近藤：強く吹く。こんなやり方だ(マイクを、ゴォッと、強く吹かれた)。吸う方は自然に強くなる。

近藤：6000m台の末踏峰は、ヒマラヤなどには、たくさんある。無名峰も結構ある。壁の要素が強い山が多い。今は装備も登攀技術も発達した。高所順応トレーニングが都会でもできる。2週間で登れる可能性もあるかも。挑戦が待たれている。

中川：大阪府連役員の方から、お開きのごあいさつ、よろしく願いいたします。園敏雄会長。

園敏雄会長：アルパインクライミングや高所登山の分野にはあまり興味を持たずに来た。本日は、感動した。身近におられる方、日頃から、もっと語って下さいね。本日は、ありがとうございました。



隊員トーク。左から小川、黒川、背後に藤川、西岡(手にマイク)、安田、滝上、山野(河野)。

## 若かったらここを登りたい-高所アルパインクライミングの課題

OWCC 中川和道 20240418

「山は逃げない」なんて、大ウソだ。玉木哲広さん[1]がおっしゃるとおり、「山は逃げる」。アルパインクライミングを本格的に始めた1980年頃、中川はダイヤモンドクーロアールに憧れていた。赤道直下ケニア山5199mの頂上にまっすぐ続く真っ白な氷のクーロアールだ、と聞かされていた。単純な中川は、単純に憧れた。必ず登ると決めたのである。社会の位置を手に入れた。さあ、行くぞ、と思った1995年には、何と、温暖化のために完全に消滅していた。夢が、それこそ、がらがらと音を立てて崩れた。山が、逃げた。

人生に研究者の道を選んだのだから仕方ないのだが、結局、登り残した山々は多い。プルビチャチュ初登頂42周年記念集会[2]で紹介されたとおり、課題はまだまだ残っているのに・・・である。例えば・・・

写真1は、テンシャンのハン・テングリ峰。氷河(4000m)から山頂7010mに一気に突き上げるのが「大理石稜ルート」。日本人未踏だ。ラインがいい、名前がいい。この山は海底の石灰岩が熱変性を受けてピンク色の大理石。氷河に四方を削られて、マッターホルンのような威容だ。夕日に染まるその姿を見て、こんな山がこの世に本当にあるのかと感極まった。統合初級アルパインリーダー学校をあと15年早く始めていたら、トライしたかも知れない。若い人、ぜひ、トライしてほしい。成功したら、ぜひ、飲もう！

写真2は、西ネパール フムラ地区の無名峰6010m。名前さえ、まだ、ない。2017年に労山大阪・兵庫50周年記念ヒマラヤ登山隊(大杖哲司隊長)が登頂を果た

せなかった山で、中川もほぼベースまで行った[3]。高度なクライミングテクニックと馬力を要求される。頂上部には高さ40mほどの垂直の岩壁の帯が行く手を阻む。Tikaさんは「ナダレルぞ、危ない山だ」とおっしゃった。でも、うまく登ったら、恋人や連れ合い、子どもの名前をつけてはどうだろう？近藤和美さんと登ったコルジェネフスカヤ峰7105mは娘の名前だったから。

中川は、トレッキングに行く気には、まだ、なれない。もう登れないくせに、悔しがり、あきらめが悪く、欲深い、矛盾だらけの自分が見えるからだ。それも、はっきりと。あーあ。

[1]玉木哲広「山は逃げる」、『山の雑学百科「岳人」編』、東京新聞、2013年、50ページ。

[2]大阪労山ニュース2024年2月号。

[3]労山大阪・兵庫50周年記念ヒマラヤ登山隊『Nyalu Lekの未踏峰 西北ネパール・フムラ2017』。



写真1. ハン・テングリ峰 7010m



写真2. ニヤルレクの無名峰 6010m。

提出日

# 事故一報

<b>提出者</b>	氏名	会員番号	地方連盟	大阪府 勤労者山岳連盟
	団体名	団体番号		

<b>事故者</b>	氏名	会員番号	年 齢	性 別
------------	----	------	-----	-----

<b>事故発生日時</b>	年 月 日	時 刻	<input type="checkbox"/> 有雪期 <input type="checkbox"/> 無雪期
---------------	-------	-----	---

<b>事故発生場所</b>	山 域	都 道 府 県
	山 名	(標高                      メートル)
	場 所	

<b>山行の形態</b>	
	手書きの場合は下記いずれかに○
	無雪期登山 積雪期登山 登攀 冬季登攀 沢登り 氷瀑 人工壁 山スキー クロスカントリースキー スノーボード 海外トレッキング 海外登山 訓練

<b>事故の原因</b>	
	手書きの場合は下記いずれかに○
	転・滑落 転倒 落石(落水) 道迷い 病気 凍傷 高度障害 火傷 落雷 雪崩 虫・動植物 荒天 そ の 他

<b>パーティー人数</b>		<b>救助捜索費</b> <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	ココヘリ加入 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
----------------	--	--	--

<b>事故の状況</b>	
--------------	--

<b>傷病名</b>	
------------	--

<b>交付申請の予定</b>	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> 未定	<b>全国労山に提出とともに、大阪労山にも提出して下さい。</b> <b><a href="mailto:jikotodoke@googlegroups.com">jikotodoke@googlegroups.com</a> Fax 06-6467-8545</b>
----------------	--	---

<b>交付申請書</b>	受 取 人	<input type="checkbox"/> 基金担当者 <input type="checkbox"/> パーティーリーダー <input type="checkbox"/> 会・クラブ代表者 <input type="checkbox"/> その他			
	送付形式	<input type="checkbox"/> 書面の郵送 <input type="checkbox"/> PDFファイルのメール送信			
	送 付 先	氏 名	会員番号	電話番号	
		郵便番号	住 所	メールアドレス(メール送付の場合は必須)	

★交付申請は、事故一報が**事故発生日から30日以内**に運営委員会に届いていなければできません。時効で交付資格を失わない為に、いま症状が現れていなくても、また交付の申請をするか判明しない時でも、事故発生の報告をしましょう。FAX 03-3235-4324   メール kikin@jwaf.jp

★**事故一報と共に、会に提出し受理された山行計画書のコピーを添付して下さい。**

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5-24 労山基金運営委員会 7/24 イル 0120-44-2742(平日10時～18時)

## OWAF メーリングリストのご案内

大阪労山の公式のメーリングリスト（以下、OWAF-ML）のご紹介です。OWAF-MLには連盟行事、伝達事項の案内や、各種登山学校や訓練、講習会の案内などが流れています。その他各登山道の状況、アルプスの山小屋情報、各会入山情報など、相互の情報交換の場として利用されています。大阪府連の会員であればだれでも登録できますので是非ご加入ください。

### ● 登録方法

公式なMLなので、登録は原則として各会でまとめていただいております。各会の登録担当者までご連絡をお願いします。担当が分からない場合は直接登録いただいても構いません。

### ● 各会登録担当者様へ

各会、代表・事務局長・理事の方は登録必須とさせていただきます。登録担当者を含めて各役職に変更があった場合にもご連絡をお願いいたします。また退会された会員の方のアドレスもご連絡をお願いいたします。



### ● 登録申請フォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S91846322/>

登録申請フォーム

### 編集後記

6月の全国平和と登山交流集會に、常任の大西さんを派遣することになりました。50数回も戦跡ハイキングを継続し毎年の平和行進を続けている連盟は少ないそうで、経験を報告して…という全国連盟からの要望です。当然派遣費用は全額…と思いましたが全額は補助されないそうです。そこには少し不満がありますが。問題はなぜ平和行進を継続している府県連盟が少ないか…ということです。私の経験から言うとそれは一年の活動を申し合わせる議案にないからです。大阪も私が労山に入会したころは議案にありませんでした。労山だから平和行進をして当たり前…という思考があったのではないかと。事務局長になってからそう提案をしました。活動はすべて議案に記して全体のものとする。そんな当たり前のことを軽視したのが平和行進を継続できない要因のひとつでもあります。（高橋 明代）

\*\*\*\*\*

今月も各会より会報を送っていただきました。

きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぼんぼん山（高槻）、こもれび通信（山の会こもれび）、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、京都労山、噴煙（鹿児島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）

発行日 2024年（令和6年）4月22日 No.458（2024年5月号）

編集・発行 笠井、園、高橋、中井、中尾、大西